
おみやげ買ってきたよ

誠次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おみやげ買ったよ

【ZPDF】

Z5721F

【作者名】

誠次郎

【あらすじ】

お父さんとコーチーのナナちゃんと王将におみやげを買ってに行つたよ！

王将に5歳くらいの男の子が、お父さんに連れられてやってきました。

「パパ、おみやげなんにするの」

青い洋服を来た男の子は顔を上げて黒い大きな目をキラキラさせていました。

応対したのは、まだお店に入つて1週間も経たない新人の女の子でした。

店の女の子はお店のエプロンをつけてましたが、おどおどして衣装が似合つていないうつでした。

「餃子3人前と八宝菜下さい」

お父さんが、おみやげの注文をしました。

「は、はい、餃子3人前と、え、と八宝菜で、よろしいでしょうか」

店の女の子は自信なれど内氣な声で答えました。

「はい、そうです」

男の子はお店の入り口で楽しそうにほしゃいでました。

他のお客さんの迷惑になりそうだったので、お父さんは注文し終えると、

男の子の手を引っ張つて

「ほら、ここにメニューがあるよ。読んでみて」「うん」と優しく言つつけました。

王将は中華料理のお店。

難しい漢字がいっぱい並んでます。男の子にはまだ読めない字がたくさん。

そこで男の子はメニューのはしごに書いてあつた文字を、大きな声で言い始めました。

「こりつしゃいませー！」

「ありがと、ありがと」
「あります」

男の子は手をつないだお父さんの顔と、お店の女の子の顔を両方交互にみながら

お店の挨拶をひとつずつはきつと読み上げてました。

お店の女の子は男の子の「元気な声」に驚きながら、男の子の「可愛い仕草」に、

顔を赤くしながら「うんうんとうなずいて」ました。

「どちらに、な、なむこますか」

「こち、（お父さん、これなんて読むの？）一人前でよろしいでしょうか？」

そのうち店内にいたおばさんたちも声に「氣づいて」、

入り口の方を一斉に振り向きました。

「あら、可愛い～！」と黄色い歓声をあげました。

数分後、女の子はおみやげを受け取ると、元気に店の奥から出てきました。

男の子におみやげを渡そと、かがみました。

「どうぞ。また、来てくださいね」

つていうと、男の子は、

「うん、ありがと！バイバイ！」

と元気いっぱい返事をしました。

お父さんは男の子の手をしつかり握りしめ、女の子には軽く会釈して、

お店を後にしました。

外はもう暗く、夜の風が湿気とともに顎をなぞていきます。

お店の外には「ヨーギー犬」の小さな子が待っていました。

お父さんと子供が出てくるとくるくると走り回って、大きくしつぽを振つて喜んでました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5721f/>

おみやげ買ってきましたよ

2010年12月12日23時39分発行